

施工条件

後沈設施工法

- ・建設残土の処理が難しいか、処理費用が高い場合
- ・施工ヤードが広い場合
- ・杭本数が多い場合
- ・鉄道など極端に施工幅が狭い場合
- ・1セットの杭を1本で建込める場合
- ・現場溶接ヶ所を少なくしたい場合
- ・送電線など施工上高さに制限のある場合
- ・上層部に礫、障害物などがある場合
- ・比較的地盤が硬い場合
- ・礫が多い場合

同時沈設施工法

- ・建設残土の処理が容易な場合
- ・施工ヤードが比較的狭い場合
- ・杭本数が少ない場合
- ・1セットの杭で現場溶接部が多い場合

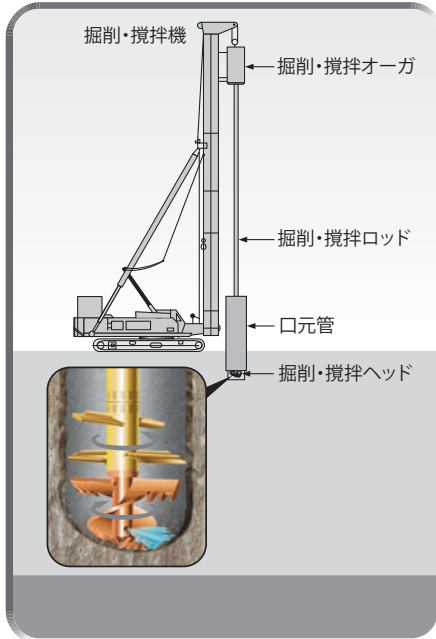
後沈設施工法のメリット

後沈設施工法は、将来掘削により排出される建設残土の処分地が少なくなる、処理費用が高くなるなど建設残土の抱える問題を解決するために、理想的にはセメント混じりの残土排出をゼロにすることを目標に開発した工法です。後沈設施工法には以下の利点があります。

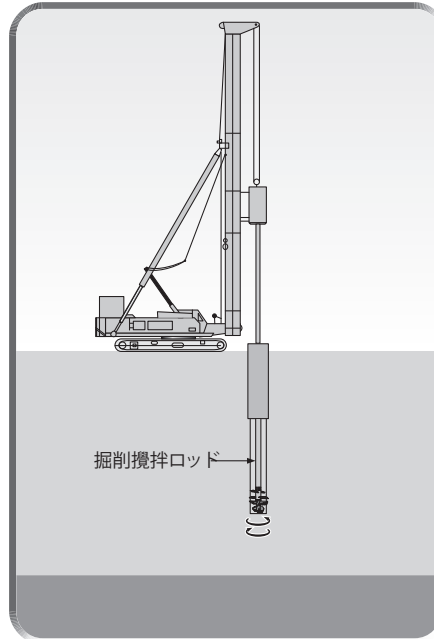
- 1) 先行掘削土量とセメントスラリー注入量をほぼ同量にすることによりセメント混じりの残土排出を無くすることができる。
- 2) セメント及び混和材の使用量を低減できる。
- 3) 先行掘削機械を独立して使用することにより施工期間を短縮することができる。
- 4) 上層の礫、障害物への対応が容易である。
- 5) 杭現場溶接を先行して行えるため天候の影響を受けにくい。

施工手順 [後沈設施工法]

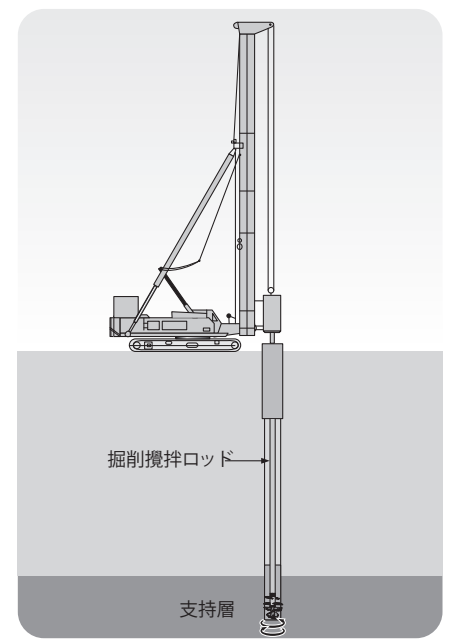
① 口元管の設置



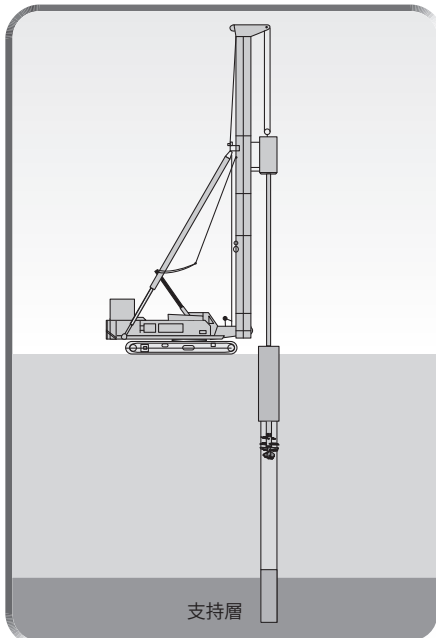
▶ ② 一般固化部ソイルセメント柱造成



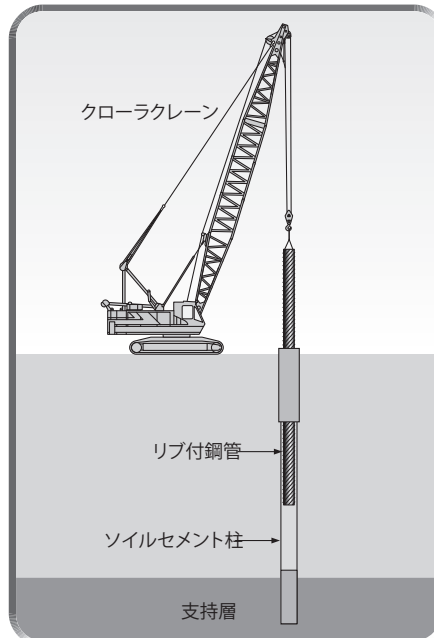
▶ ③ 先端固化部ソイルセメント柱造成



▶ ④ ロッド・ヘッド引抜き回収



▶ ⑤ リブ付鋼管建込み・定着



▶ ⑥ ヤットコ回収・埋戻し・口元管回収

